

少年労働者の実態：沼津・三島地域における調査報告

著者	三溝 信, 副田 義也
出版者	法政大学社会学部学会
雑誌名	社会労働研究
巻	12
号	1
ページ	38-77
発行年	1965-09-20
URL	http://hdl.handle.net/10114/8192

年少労働者の実態

——沼津・三島地域における調査報告——

三 溝 信
副 田 義 也

はじめに

昭和三八年、法政大学社会学部社会学科の若干のメンバーを中心に「工業化の進展と地域社会の展開」というテーマのもとに、静岡県沼津・三島地域の社会調査が行なわれた。この調査報告は、その一部分をなすものであり、工業化の急速に進展している一地域において、新たな労働力がどのように形成されて来るのか、そしてその新たに形成された年少労働者の実態はいかなるものであるのか、を明らかにすることを意図したものである。

第一節は、教育委員会に集中された各校からの報告及び若干の対象校における就職者に関する全数調査を主な資料とし、この地域における年少労働者の形成過程を追求したものである。第二節以下は、この対象校の昭和三五年三月卒業生に対して更にくわしくなされた事例研究及び質問紙調査の結果に基づいている。第二節では、年少労働者の移

動が、第三・四節ではその労働及び生活の実態が問題とされる。なお第三・四節の関係は、第三節において、事例研究によってなされた接近が、先行する諸研究によって明らかにされたことがらと、あわせ利用されて、第四節での数量化による接近の枠組を構成するという関係にある。

なお、沼津・三島地域の全体としての構造及び変化については、この共同研究のメンバーによってすでに発表された論文『工業化の進展と地域社会の変化―静岡県三島市調査報告』（北川・石川共著、『社会労働研究』第11巻第3号所載）を参照していただきたい。

1 年少労働者の形成

いうまでもなく、年少労働者の供給源は中学校及び高等学校である。沼津市・三島市全体で新らたな労働力がどのくらいの割合で形成されるかをみよう。第一表に明らかのように、最近では進学率が急激に増大し、昭和三五年三月卒と三八年三月卒の間にも中卒・高卒の男女それぞれに、一〇%前後の開きがみられる。それに応じて新らたな労働力の供給は率としては減少するわけであるが、高卒の女子の場合に限り無業者の割合も減少しているの、就職率にはそれほど変化が生じない。なおこれら就職者のうち、自営業に従事するものをみると、高卒男子一一%、女子五%、中卒男子七%、女子九%（いずれも就職者に対する割合、三八年三月卒）である。

これら就職者の職業及び産業別分類を第二・第三表に示そう。中卒・高卒及び男・女によって、従事する職業の上にかかなり大きな変化が見られるが、三五年と三八年の間にはさほどの変化は認められない。

いずれにしろ、三八年三月高校卒業の年令に關して計算すれば、自営業就職者を除外して男女共に約六〇%強の人

第1表 卒業後の状況

			進学	就職	無業	その他	計
中学	男	S. 35.3	62	35	2	1	100(2,149)
		S. 38.3	76	23	0	1	100(2,512)
	女	S. 35.3	66	29	4	1	100(1,845)
		S. 38.3	79	20	1	0	100(2,069)
高校	男	S. 35.3	14	73	11	2	100(1,783)
		S. 38.3	29	60	10	1	100(2,084)
	女	S. 35.3	13	65	21	1	100(1,801)
		S. 38.3	20	66	12	2	100(1,880)

年少労働者の実態

共に6月1日現在
(教育委員会への報告より計算)

第2表 就職者の職業別

			事務従事者	販売従事者	農林業者	漁業作業者	運輸・通信	技能労働者	単純労働者	サービス従事者	左記以外	計
中学	男	S. 35.3	2	8	4	4	1	60	11	4	6	100(759)
		S. 38.3	0	4	1	6	2	61	7	6	13	100(583)
	女	S. 35.3	5	11	4	—	1	43	15	14	7	100(532)
		S. 38.3	5	13	—	0	2	46	8	14	12	100(413)
高校	男	S. 35.3	26	14	4	0	0	45	3	2	6	100(1,295)
		S. 38.3	33	11	4	—	5	41	0	3	3	100(1,241)
	女	S. 35.3	72	15	1	—	—	5	—	6	1	100(1,180)
		S. 38.3	75	14	—	—	0	4	2	3	2	100(1,230)

共に6月1日現在
「採鉱・採石作業者」は皆無
(教育委員会への報告より計算)

第3表 就職者の産業別

			農 業	養 殖 業	漁 業 ・ 水 産	建 設 業	製 造 業	小 卸 売 業	金 融 ・ 保 険	不 動 産 業	信 用 業	運 輸 業	水 道 業	電 気 ・ ガ ス ・ 業	サ ー ビ ス 業	公 務	の 左 記 以 外	計
中 学	男	S. 35.3	1	4	3	72	9	0	0	1	1	4	—	5	100 (759)			
		S. 38.3	0	6	2	67	6	—	0	3	0	6	0	10	100 (583)			
	女	S. 35.3	1	0	—	63	12	1	0	3	—	13	0	7	100 (532)			
		S. 38.3	—	0	—	56	17	0	1	1	—	14	0	11	100 (413)			
高 校	男	S. 35.3	4	—	7	47	22	6	—	5	2	3	3	1	100 (1,295)			
		S. 38.3	4	—	5	42	19	6	—	10	1	6	5	2	100 (1,241)			
	女	S. 35.3	1	0	1	38	34	8	0	3	2	7	5	1	100 (1,180)			
		S. 38.3	1	1	2	32	29	16	—	4	2	7	4	2	100 (1,230)			

共に6月1日現在

「林業・狩猟業」「鉱業」は皆無

(教育委員会への報告より計算)

たちがこの年令までに労働力市場に投げ入れられることになる。ところで彼らはどのような層からなっているのだろうか。沼津・三島両市より、それぞれ高校・中学を一校ずつ抽出して調査を行ったが(以下の資料はこの調査結果に基づく)学校で記録されている保護者の職業は、単に「会社員」、「農業」、「商業」等の記入にすぎないため、就職者と非就職者の家庭を階層的に比較できる資料はほとんど得られなかった。ただ、中学校の教員の話によれば、「最近では、家庭が貧しいために家計補助の目的で就職するという子供は少く、勉強がきらいで成績が悪く進学もできないから就職するという子供が多い」ということであった。第四表は就職者の数学・英語・美術(中学のみ)の成績から、三年生の二学期における成績を上・中・下に分けたものであるが、成績の悪いものが多いということからして、このことばがある程度証明されているといえるかもしれない(もっとも、進学者中心に授業がす

第4表 就職者の成績

			上	中	下	計
中 学	男	S. 35.3	4	57	39	100(124)
		S. 38.3	2	60	38	100(114)
	女	S. 35.3	10	61	29	100(91)
		S. 38.3	3	64	33	100(76)
高 校	男	S. 35.3	16	72	12	100(448)
		S. 38.3	8	66	26	100(354)
	女	S. 35.3	35	65	—	100(80)
		S. 38.3	18	64	18	100(110)

すめられている現在の中学では、この因果関係は逆とも考えられるが。

次にこれら中・高新卒者の就職先についてみよう。沼津・三島両市全体の新卒者の就職先の職業別、産業別の数字は第二・第三表に示したとおりであるが、これを地域別(第五表)及び規模別(第六表)の数字とあわせてみると、この地域での年少労働者形成のだいたいの傾向がはっきりして来る。すなわち、この地域では、中卒の新労働力は、その大部分が地域内で吸収されるが、就職先の規模からいえば中小企業が圧倒的に多い。男子は製造業労働者に、女子は製造業労働者のほか卸小売業及びサービス業に、集中する。年少労働力の不足という最近の状況下では、中学新卒者への求人は非常に増大しているのであるが、それでも三五年と三八年の間の変化はさほど大きなものではない。職安職員の話によれば、「最近では求人側がコネクションを最大限に利用する」ということであるが、このような「義理」にしばられて就職先がこの地域に限定されるという傾向はむしろ増大しているようである。もちろんこの増大は、最近の沼津・三島地域における工業化の進展とも関連がある。このように、中卒労働者は、現在もなおこの地域に

第5表 就職者の就職先地域別

			※ 沼三地域	※ 静岡県下	県 外	不 明	計
中 学	男	S. 35.3	85	9	3	3	100(124)
		S. 38.3	91	5	2	2	100(114)
	女	S. 35.3	86	9	5	—	100(91)
		S. 38.3	89	8	3	—	100(76)
高 校	男	S. 35.3	51	28	19	2	100(448)
		S. 38.3	49	24	23	4	100(354)
	女	S. 35.3	62	16	21	1	100(80)
		S. 38.3	63	21	16	—	100(110)

※「沼三地域」とは、沼津市、三島市、清水町、長泉町、裾野町を含む通勤可能な地域。「静岡県下」はこの二市三町を除いた県下をさす。

第6表 就職者の就職先規模別

			500～	100～499	30～99	～29	不 明	計
中学	男	S. 35.3	15	17	23	40	5	100(124)
		S. 38.3	18	31	11	36	4	100(114)
	女	S. 35.3	34	20	16	29	1	100(91)
		S. 38.3	38	26	11	24	1	100(76)
高校	男	S. 35.3	54	9	7	26	4	100(448)
		S. 38.3	57	10	7	21	5	100(354)
	女	S. 35.3	48	11	10	25	6	100(80)
		S. 38.3	48	11	11	25	5	100(110)

おける最下層労働者の供給源となっているのである。これに対して、高校新卒者の場合には、五〇〇人以上の規模への就職者が半数を占めている。特に男子の場合、この割合は増大する。なお高卒男子の二九人以下という欄には、約半数の自営業就職者が含まれていることに注意しておかねばならない。

第7表 在学中の成績と就職先の規模
(S. 35.3卒業)

規模 成績	～500	30～499	～29	不 明	計
上	67	12	16	5	100(117)
中	29	31	36	4	100(398)
下	28	28	43	1	100(128)
計	35	27	34	4	100(643)

(S. 38.3卒業)

規模 成績	～500	30～499	～29	不 明	計
上	56	19	21	4	100(53)
中	50	23	23	4	100(419)
下	39	28	29	4	100(182)
計	47	24	25	4	100(654)

とにかく、このような就職先の規模の拡大に応じて、その地域も県下及び京浜地域に拡大されるようになる。女子は圧倒的に事務労働者が多く、男子では半数近い生産工程作業者が含まれる。

現在の日本の労働者の賃金は非常に大きな規模別格差を伴っており、それが労働者の階層構成をなすわけであるが、以上に明らかのように、この階層構成は、中卒・高卒という学歴差によって、新労働力形成の際にすではつきりと認められるのである。

と同時に、このような階層構成が在学中の成績によってもそうとう強く条件づけられていることにも、注目しておく必要がある。この点では、中卒・高卒、男・女共それほど差がないので、第七表には、サンプル数の関係もあって全部を合計した数字を示した。成績のよいものほど大規模な企業に就職しているという関連が見られよう。ただし、二つの表から明らかのように、この関連は三八年三月卒業の場合には弱められて来てはいる。つまり、この地域——及び日本全体としても——の工業化の進展の中で、年少労働力の不足に伴って、従来の労働力市場の秩序が破壊されつつあるということがいえるのではなからうか。なお、業種との関連でいえば、中卒では製造業

に、高卒では金融業及び公務に、成績の上のものが多く、共通して卸小売業・サービス業に下のものが多いが、これは労働の種類との関連であるよりはこれら業種の規模との関連によって生じている傾向だといふことができよう。

2 年少労働者の移動

以上、中・高卒卒者の就職状況から年少労働者の形成をみて来たわけであるが、それではこのようにして形成された年少労働者の実態はどのようなものであろうか。それを明らかにするために、われわれは、先に抽出した四校の三年三月卒業の就職者についてインタビューによる事例研究を行い、また郵送法による質問紙調査を行った。

四校とは、沼津市立高、三島南高、沼津三中、三島北中である。インタビューは、調査期間及び就職者の集中度の関係から、中卒者に限り、任意に選択した約二〇名に対して行った。質問紙による調査は、中卒就職者全員、高卒就職者三分の一（非任意抽出）に対し、自記式・郵送によって行った。当初のサンプル数は、中卒二三一、高卒一八三、このうち、転居により返送されたものが中卒二六、高卒四、結婚、進学等の理由で調査対象でなくなったものが中卒五、高卒四であり、これらを除いた有効サンプル数は中卒二〇〇、高卒一七五となった。回答数は中卒一一〇、高卒一〇二であり、回答率は中卒五五%、高卒五八%となる。郵送法による回答率としては高い方であるが、それでも半数をややこえる程度であるので、サンプルに若干のかたよりがありうることは考慮しておかねばならない。

以下、その調査によって明らかにされた年少労働者の実態を述べるが、この節ではまず労働力移動の問題をとりあげよう。

第八表は、就職後調査時点までの三年半の間における就職先の移動の回数を示したものである。中卒の場合には約半数が移動の経験をもっており、二回以上移動しているものもかなり多い。高卒の場合は四〇%弱の移動がみられ

第8表 移動回数

	0	1	2	3	4	無回答	計
中学男	45	27	20	2	2	4	100(56)
中学女	49	31	12	6	—	2	100(52)
高校男	65	25	6	1	2	1	100(84)
高校女	59	29	12	—	—	—	100(17)

第9表 最初の就職先の規模と
移動経験の有無

移動経験 規模	移動経験		計
	なし	あり	
500～	86	14	100(102)
100～499	48	52	100(29)
30～99	29	71	100(21)
～29	28	72	100(50)

(いずれかへの無回答者9を除く)

者のうち、大企業就職者が母集団のそれに比して大きいことから考えれば、中卒での移動率は実際にはもっと大きなものであるといえよう。

したがって、移動の理由もまた、第一〇表に示したように、労働条件への不満が大きなものとなる。ただし、この場合も、高卒者においては現実の不満というよりは、企業の将来性への不安ということが大きなウェイトを占めているのに対し、中卒者においては不満はより直接的である。労働時間が不確定であるとか、労働環境が悪く労働災害が多いというような、実際たえがたいような条件が移動の原因になっている。その他、労働が単純であるためすぐに興味がうしなってしまう、雇傭主との関係が直

る。この中卒・高卒の差が彼らの就職先の企業規模の相違によって生じているものであることは、第九表をみればただちに明らかであろう。五〇〇人以上の規模での移動が非常に少いのに対し、九人以下の規模では移動率が七割をこえている。このことは、大企業では終身雇傭制が一般的であるのに対し、中小企業において労働力移動がかなりはげしいというこれまででもたしかめられて来た日本の労働力市場の特色と一致する。中卒の回答

第10表 移動の理由（最初の就職先から2度目のものへ）

労働条件が悪い	39%
仕事がおもしろくない	9
人間関係がおもしろくない	9
非自発的な理由	3
他企業からのひき抜き	8
家庭の事情	21
その他	8
無回答	3
計	100(89)

接的であるため、うるさくいわれてやめるといような例が多い。インタビューで確かめた範囲で興味があったのは、このようなさまざまな不満にもかかわらず、給料に関する不満はほとんど聞かなかったことである。この点に関しては、「ブツブツいっててもしかたがない」という受けとり方が多く、たとえ不満ではあっても移動の直接的な原因となることは少いようである。いいかえれば、給料への不満は常に底辺に横たわっているにしても、それだけでは移動の原因となりえず、むしろもっとささいな動機が移動の原因となっているといえよう。このことは、彼らがなおハイティーンで、大部分のものが小遣いかせぎに近い状況にあるという理由によって強められている。そして、おなじくこの年令的な条件が、労働市場における彼らの優位性を保証しているため、彼らは実に気安く勤め先をかえているようである。

ところで、このようなさまざまな理由で移動した彼らの、移動先はどのような状況なのか。第一一表にみられるように、実際には中小規模企業内部での移動が半数以上を占める。それも圧倒的なのが九九人以下規模内での移動である。しかし中小企業から大規模企業への移動もほぼ四分の一あり、いったん中小企業へ就職した年少労働者が、地域の工業化の進展の中で、多少とも大規模企業に移動していることが認められる。これに対して大規模企業か

第11表 最初の就職先の規模と2度目の就職先の規模（実数）

I	大規模企業内での移動	8
II	中・小規模企業から大規模企業への移動	
i)	100～499→500以上	7
ii)	99以下→500以上	14
	小 計	21
III	大規模企業から中・小規模企業への移動	
i)	500以下→100～499	3
ii)	500以下→99以下	9
	小 計	12
VI	中・小規模企業内での移動	
i)	100～499→100～499	3
ii)	100～499→99以下	5
iii)	99以下→100～499	4
iv)	99以下→99以下	33
	小 計	45
	計	86

年少労働者の実態

（規模不明1，失業中2を除く）

第12表 最初の就職先での仕事の種類と2度目の就職先での仕事の種類（実数）

最 初 \ 2 度 目	生産労働	販売労働	事務労働	そ の 他	計
生 産 労 働	36	11	10	—	57
販 売 労 働	7	2	1	—	10
事 務 労 働	7	1	7	1	16
そ の 他	2	1	—	1	4
計	52	15	18	2	87

（失業中の2を除く）

ら中小企業への移動、大規模企業内での移動は少い。また仕事の種類で見ると(第二二表)、生産労働内での移動が最も多いが、生産労働から販売労働・事務労働への移動もかなり多い。後者は特に女性の間に多くみられる。ただし、中卒の女性の場合、販売労働、それも小商店の売子が大部分であり、そこでの移動ははげしくなる。

なお、このような移動に際しての紹介者を見ると、最も多いのが「親・兄弟・親類またはその人たちの知人」で五四%、ついで「友人」が一五%であり、「職業安定所」一〇%、「募集広告」九%という数字が示すように、制度的なものを介して無面識の企業に移動することは少いようである。したがってまた、インタビューでたしかめた範囲では、新たな企業への就職に際して試験らしきものがおこなわれるということも皆無だといってよい。

このようにみると、この地域での年少労働者の移動には、ほぼ次のような三つの型を考えることができる。

第一に、移動者の最も大きな部分を占めるものとしての中小企業内での移動。これは、大部分が中卒者によって占められ、男子は生産労働、女子は販売労働を主としつつ、短期的な期間で移動をつづける。後にもみるように、彼らは移動をそれほど重要なこととは考えず、また彼らが眼前にしている親方Ⅱ主人Ⅱ企業主自体が小さく不安定なものであるだけに、それは彼らの手のとどく地位であり、彼らもまたその地位を将来に夢みている。こうして現実には、彼らはこの地域の中小企業を流れ歩く、典型的な中小企業労働者となるであろう。第二に、大規模企業から、中小企業への移動がある。その原因は必ずしも一様ではないが、大部分が不適応であるといえそうである。不適応ということとは、大企業労働者に要求されているある種の人間になり切れなかったということである。彼らは、いったん中小企業に移ってからは第一の型の移動をつづけるものと考えられる。第三は、中小企業から大規模企業への移動がある。この場合、「企業の将来性」ということが移動の主要な理由となる。高卒男子にこの移動の型がかなり多くみられるが、こ

のような移動の道がどのていど開かれているかは、それぞれの企業に対する調査によらねば明らかにしえないであろう。

3 年少労働者の労働と生活

— 事例による接近 —

年少労働者たちの労働と生活とにたいして、事例による接近をおこなおうとするとき、その目的は、とりあえず、二つかぞえられた。すなわち、その一つは、のちにおこなわれる数量化による接近では、とらえがたい、あるいは、すくなくとも見失われがちな、現実の全体性にちかずこうとすることである。この「全体性」の概念については、多くがかたられねばならないが、いまは、それを控えることにする。のこりの一つは、すでに述べたように、数量化による接近のための枠組の一部をひきだそうとすることである。以下の叙述も、これらの目的をはたすように、おこなってゆきたい。

事例となるべき年少労働者たちは、沼津市立沼津第三中学校を昭和三五年三月に卒業し、ただちに就職した少年、少女たちからえられた。この選択にあたっての方針は、産業の種類、企業の規模、対象の性別などで、事例が、地区の年少労働者の全体がもつ属性となるべく近似した属性をもつようにするところにあった。ところが、実際に面接のために職場への訪問をはじめてみると、三年間に転職しているものが多く、訪問は出身中学校にのこされた卒業時の就職さきの記録によったので、面接ができないばあいしばしば生じた。転職さきを追ってゆく努力もなされたが、つねに成功したわけではない。さいしょにえらんだ事例は二一であったが、面接に成功した事例は一〇にすぎな

い。このうちの六の面接記録の一部を以下に紹介する。

接近の方法は、事例となった年少労働者の勤務さを訪問し、本人と人事関係の責任者などに別々に面接するというやりかたをとった。本人にたいしては、一時間から一時間半ほどの自由な対話のなかで、(1)労働過程と労働組織、(2)賃金・消費支出と家族組織、(3)労働時間・余暇時間と余暇消費という三つのことがらについて、それぞれの実状と、その実状にかんする意識をたずねた。人事関係の責任者には、企業の一般的な概況と、事例となった年少労働者の特性とをたずねた。以下の紹介のなかでは、まず、企業の概況をてみじかに述べ、ついで、本人があきらかにしたことがらを、なるべく本人がもちいたことばで、示してみる。

(事例1) Y・K君。男子、一八才。

F発動機につとめている。同社には労働者が五〇〇余名はたらいっており、この地区では、中学校の卒業生がそこに就職することができるとは幸運であるとされる、安定した、大きい企業である。もっとも、そうはいっても、それは、F重工の下受け企業であり、株の六〇％はF重工がもち、商標もF重工と共通している。消防ポンプ、空冷エンジンなどを製作している。労働者は、生産部門と管理部門とでは半数づつにわかれる。前者は、さらに三つにわかれ、第一工場(消防ポンプ)、第二工場(空冷エンジン)、第三工場(その他)となる。

(1) F発動機に就職をする気持になったのは、中学校三年生の二学期、受け持ちの教師にすすめられたからです。自分としては、自動車の修理工になりたいという希望をもっていました。F発動機ならば就職さきとして悪くないとおもいました。ここにはいつてから、これまでにやってきた仕事は、一年目がヘットの穴あけ、二年目がシリンダー・ラジアル、三年目の現在が第二工場・第四機械・シリンダー初工程でセンバンです。一年目から仕事はつまらな

かった。その理由は、仕事がすぐわかってしまうからだ、とおもいます。自分がやらされている仕事がつまらなくみえるのにつれて、ほかの企業の仕事がおもしろくみえてくるものです。友だちのひとりで、三年間に七回転職したものがいますが、おもしろい仕事を求めてそうしたのでろうし、その気持はわかります。自分たちにとっては、まだ、仕事のおもしろさがなにより大事なのです。賃金の額のほうが大事になるのは、やはり、二〇才をすぎてからではないでしょうか。組合はありますが、私は、とくにつよい関心をそれにもっているわけではありません。組合の代議員選挙は、このあいだの六月にありました。二〇人の班から、一人の代議員が出るしくみになっています。私は、まだ、経験がありません。

(2)賃金は、基本給一二、〇〇〇円、それに諸手当がつきます。しかし、社内預金二、六〇〇円、そのほかを差しひかれると、手取りは一〇、〇〇〇円ほどです。初任給は六、〇〇〇円、毎年二、〇〇〇円づつ昇給してきました。一〇、〇〇〇円のなかからは、家に五、〇〇〇円をいれます。これは、同じ年頃のほかの人びとにくらべると多いほうで、ふつうは、三、〇〇〇円くらいしかいれないのではないのでしょうか。しかし、これには、家族の者たちの事情もあるのです。

私の家族たちは、みな、いっしょに、叔父の家においてもらっているのです。父は、結核で、この八年間ずっと寝ています。母は、五年ほどまえに亡くなりました。働いているのは、兄と私との二人です。だから私は、仕事はつまらなくとも、がまんして、手がたく、平凡にゆこうとおもいます。事業をやりたいとはとくにおもいません。希望は、家族の者たちの健康だけです。

(3)仕事は、八時から四時二〇分までです。五時には帰宅しており、一〇時ごろには就寝します。暇な時間は、主と

して、ギターをひいてすごします。ギターは、就職して一年目にならないはじめ、ちょうど一年間ならいました。いまは、ひとりで勉強したり、沼津古典ギター愛好会の会員として仲間と勉強したり、しています。この会で、文化祭やその他の機会に発表会をもよおします。八月二四日の発表会では、私も、合奏に出演しました。ひいたのは、アンダンテ、月見草、小鹿のバンビの三曲です。私たちは、クラシック(?)ばかりひいてジャズはひかないことにしています。スポーツは、以前、会社の体操部にはいつていたことがありますが、いまはやめました。生活のはりは、もっぱら、ギターをひくことです。

(事例2) S・Kさん。女子、一八才。

F製菓につとめている。全国的に著名な製菓会社で、この地区で中学校を卒業して就職をする女子生徒が、まず、ねらう企業の一つである。作業内容が女性向きであり、労働条件が比較的にはもつともよい部類に属するからである。企業内部は八つの課にわかれるが、中学校卒業の女子が配属されるのは、製造一課(ミルクィ、ハイカップ、チュウイングガム、そのほか乳製品、製造二課(ビスケット)の二つである。

(1)F製菓に就職したいとおもったのは、会社は大きいし、姉がここで働いていたからです。はいつて一年目は、ミルクィのサクク詰めとラッピングをやりました。二年目からはビスケットのボックス詰めをやっています。スイーターといつて、ジャム入りサンドのビスケットを、五色のいろどりで詰めあわせるのです。仕事は、第一包装班から第三包装班までにわかれてやっています。一班ごとに、一〇年くらいの経験をもつ男子の班長がいて、そのしたに、組が五つ六つあり、組長は女子、組員は一組あたり二〇人くらいです。仕事ははじめおもしろくなかったけど、いまのビスケットのボックス詰めはおもしろい。この、おもしろいか、おもしろくないかは、仕事の内容よりは、いっしょ

に働くひとたちによってきまるようにおもいます。私のばあい、さいしょは、トッポイのがいっしょで、いやだったのです。いまは、気があうひとたちばかりで楽しい。組合があります。代議員を組でえらび、その人たちが主として活動します。ふつう、代議員には古参のひとたちになります。私は、もちろん、やったことがあります。今年の夏のボーナス交渉では、時限ストをやりました。時限ストはときどきやります。

(2) そのほかにも、賃金は、基本給が一四、四〇〇円、これに皆勤手当、早出手当などがつきます。手取りは、社内預金を一、五〇〇円さしひかれて、一三、〇〇〇円くらいでしようか。初任給は六、〇〇〇円でした。一三、〇〇〇円からは、まず、漁業協同組合に五、〇〇〇円を貯金します。洋裁の月謝が七五〇円、あとは、ぜんぶ、お小遣いにします。洋服は、平均して、一月に三着くらいこしらえます。

家族は、漁師をしている父親、母親、兄夫婦、弟、それに私で、六人です。結婚の相手をかんがえらしたら、ふつうは、サラリーマンというのでしょうけど。私は、もう、結婚するつもりで交際しているひとが居るのです。電気関係の技術者なのです。結婚をして、その人がお店をもつようになればよいとおもいます。結婚は私が二〇才になったら、なるべくはやくしようとおもいます。そうしたら、相手の両親もいっしょにくらすことになっていきます。

(3) 会社がひけたあと、週に三回は洋裁、一回は活花をおそわりにゆきます。洋裁は三回で四時間くらい、活花は一回に一時間くらいでしようか。スポーツは、バレーボールやソフトボールをほかのひととは会社でやっていますが、私はやりません。週に四回もならいにゆくとなると、けっこう忙しいのです。読書は、新聞に週刊誌くらい。いまの状態で、不満らしい不満はないといってよいとおもいます。

(事例3) Y・Sさん。女子、一八才。

F 製菓につとめている。同社については、事例2を参照。

(1) F 製菓に就職したいとおもったのは、友だちがここに居て、話をいろいろ聞いていたからです。でも、賃金がかいということは、主な理由ではありませんでした。仕事は、一年目は手包装で、パイパイを巻いたり、クラッカーをつめたりしていました。そのあとは、いままで、サンドマシンの運転や製品とりをしています。仕事は、さいしよは、すわっていられたから楽でしたが、いまは、立ちつめで苦しい。それに、仕事が、かわったはじめはよいのですけど、すぐにわかってしまい、わかるとあきてくるのです。そうなると退屈です。

(2) 賃金は、基本給が一四、四〇〇円、手当、社内預金、そのほかを、くわえたり、ひいたりしますと、手取りはどのくらいでしょうか。注意したことがないので、よくわからないのですけど。とにかく、そのなかから、家に四、〇〇〇円いれて、さらに、三、〇〇〇円を貯金します。そのほかは小遣いで、主なつかいみちは、洋服をこしらえることと、会社の友だちとあそびにゆくことです。

家族は五人、父親、母親、第二人、私です。父親は、材木会社をやっています。結婚は、まだ、かんがえています。もうすこしあそんでいたい。いずれ結婚するときは、サラリーマンとしたいとおもいます。でも、恋愛の機会をもとめて、ちょっと積極的になうごけば、あいつは「いいたま」だといわれるでしょう。私は、それで、いやなおもいをさせられた経験もあります。

(3) 会社は、八時二〇分に始業、四時三〇分に終業です。会社で、いろんなお稽古ごとをやったり、なんかして、六時ごろに会社を出ます。帰宅したあとは、お店のほうであそんで、入浴し、テレビジョン、夕食、就寝と、だいたい、きまっています。私は、あそぶのがとても好きです。休日、かならずといってよくらい、会社の仲間といっ

しよに出かけます。映画やスケート、キャンプにもよくゆきます。

(事例4) M・T君。男子、一八才。

S水産につとめている。労働者が数人の典型的な零細企業である。製氷をおこなういっぽう、貸冷蔵庫室をやっており、そこに水産物をあずかっている。

(1) S水産にくるまえに、四つの職場ではたらきました。さいしょは、F発動機(事例1を参照)で、職業安定所からすめられて就職しました。しかし、仕事は単調だし、賃金はひくい。一年三カ月でやめました。つぎがS製作所で、友だちの紹介ではいりました。これは、T製作所の下請けですが、会社としては大きかったようです。一年半いてから、やめました。喧嘩して、掛長をちょっと殴ったら、うしろに吹きとんで、ひっくりかえり、頸の骨がどうかになったということが理由です。三番目がY機械で、半年いました。アイスクリーム製造機をつくる町工場で、工員は、私をいれて三人という小ささです。いままでやった仕事のうちで、おもしろかったのは、ここの仕事だけです。その、機械をつくる仕事は、ほんとうにおもしろく、はりあいがありました。あれは、図面をわたされて、一つの機械を、さいしょからさいごまで、一人でつくらせてくれたから、おもしろかったのだろうとおもいます。やはり、頭をつかう仕事はおもしろい。しかし、ここも、仲間を殴って、やめました。四番目がA建設で、四カ月いました。仕事は木工です。いやになった理由は、仕事が単調で、しかも、仕事場が自宅にちかいついてるので、なんの変化もないからです。変化がほしくて、やめました。それから、このS水産にきましたが、ここもつまらない。でも、できれば、二〇才まで辛棒してから、よその土地にゆきたい。ダンパーの運転手をしたいとおもいます。あの仕事は、稼ぎがよいのです。

(2) 賃金は、一七、〇〇〇円とちょっとです。これから、五、〇〇〇円を家にいれます。貯金は、まえはしていましたが、いまは、あまりしません。のこりは小遣いにしますが、洋服代にはかなりつかいます。背広は、いま、六着もっています。まだ、こしらえたい。月賦でこしらえるのです。

家族は七人です。父親は、コンクリート会社につとめていましたが、このあいだの七月に亡くなりました。祖母と母親、兄弟は四人います。長兄は国鉄につとめ、次兄は製図屋でT製作所の下請け企業にいます。三番目の兄は鉄工場、弟は中学校の三年生です。

(3) ここは、八時に始業、五時に終業です。帰宅は六時半、入浴し、夕食をとったら、寝るまでテレヴィジョンをみます。土曜日はよく映画にゆきます。家にいてもつまらないのですが、外に出ても道楽があるわけではないので、困ります。趣味といわれると、つりが、いちおうは趣味ということになるのでしょうか。ハゼやウナギをつりにゆくのは好きですが、いまのこの季節は、だめです。そのうち、自動車の運転をおしえてもらうつもりです。二カ月もあれば、ぜんぶのみこんでみせます。これは、将来、ダンブカーの運転手となる準備です。

(事例5) A・H君。男子、一八才。

レストラン・T軒につとめている。T軒は、労働者二八〇人、この種の店としては、大きいほうである。また、沼津では、由緒がある店として知られている。企業内部は、調理部、販売部、パン工場、グリル、駅売店、そのほかにわかれる。レストランだけではなく、パンや駅弁の製造・販売までをやっている。宴会場を貸すのも主要な業務の一つである。

(4) コックは、ほんとうに一人前になるのに一〇年、ふつうのレストランで通用する程度になるのにも五年はかかるのですから、たいへんです。ここに就職してから、一年目は洗いながし、二年目からは野菜洗い、サラダの準備、冷

蔵庫の管理、補充などをやってきました。仕事は楽ではありません。チーフから叱られたときなど、いやになることもあります。いやになることがもっとも多かったのは、やはり一年目でしょうか。いまは、仕事をおぼえることの大事さがわかってきましたけど、それでも、朝の八時から働きづめに働いて、三時ごろから疲れてくると、参ってきます。でも、苦勞しても、技術が自分の身につくのですから、苦勞のしがいがあります。いずれは、レストランを一軒もちたいとおもいます。そうしたら、名物料理をつきめて、それで、店の名を売るのがよいとおもっています。このT軒は、カレー料理で名を売ったときいています。

(2)賃金は、手取りで一四、五〇〇円です。このうち、一、〇〇〇円を店にまかない費として、八、〇〇〇円を家に食費として、いれます。このほか、さだまった支出としては、一五年がけで二五〇、〇〇〇円になる簡易保険にはいつているので、その掛金があります。小遣いにするのは、一、五〇〇円くらいでしょうか。衣類と映画、それに、飲食費につかいます。飲食費は、私たちには、トレーニングの費用としての意味をもっています。ほかのレストランで飲食して、勉強するのです。このT軒とはりあっているN軒には、従兄がいますが、まけたくありません。あちらは、量が多いので評判ですが、質は劣っているとおもいます。

家族は、四人です。父親は胃がわるくて、家で、ぶらぶらしています。母親は工場に出ています。子どもたちは、もう、止めてほしいというのですが、本人はつづけるつもりようです。あと、弟がいます。

(3)八時に始業、八時に終業ですから、平日は、ほとんど、暇な時間がありません。休日は週一度です。七月から八月は海水浴シーズン、一〇月から十二月は結婚式シーズンで忙しくなります。二月と九月はわりあい暇で、たまには五時終業ということもあります。休日には、中学校時代からの友だちがやってきて、ソフトボールをしたり、雑談を

したりします。雑談の話題には、あそび関係のものをえらびます。仕事関係では、賃金のことぐらひは話しても、仕事の内容には触れないようにします。ほかのひとの仕事の内容をきけば、それがおもしろそうで、そちらに転職したいという気持が、どうしても出てきますから。これは、私だけが注意していることではないでしょう。おたがいに、なにもいわなくても、同じようなことをかんがえているのではないでしょう。

(事例6) I・Mさん。女子、一八才。

I軒につとめている。同店については、事例5参照。

(1) I軒に就職したいとおもったのは、隣家のひとが勤めていたことや、親族のすすめ、雰囲気がいなこと、同年輩のひとが多いこと、などによつています。初任給は四〇〇〇円で低いほうでしたから、別に、賃金が理由だったわけではありません。一年目は洗いながしと、鉄板、卵を置く台の清掃、二年目はおすし、サンドイッチの掛りにまわされ、油揚げを煮ていました。三年目で、ようやく、駅弁の料理を手伝っています。仕事に不慣れなことや、いっしょに働くひとたちとうまく話せないことで、さいしょは苦痛でした。しかし、一カ月もすると話ができるようになり、三カ月くらいで仕事もいくらかのみこんできました。

(2) 賃金は一五、〇〇〇円で、いちど、ぜんぶを家にいれます。それから、お小遣いをあらためて、三、〇〇〇円から四、〇〇〇円ほどもらいます。なににつかつているのか、自分でもはっきりわかりませんが、やはり、洋服と映画などでしょうか。飲んだり、食べたりにはあまりつかっていないつもりです。貯金はしていますが、毎月の金額は一定していません。

家族は、四人で、母親、弟、祖母と私です。父親は、私が小学校四年生のとき、亡くなりました。母親は映画館に

つとめています。もう四五才になるので、働くのは辛いようです。母親にはやく楽をさせてやりたい、というのが、いま、私がつもっている、もっともつよい希望です。そのためには、沼津商業高校二年生の弟にも、はやく一人前になって、かせいでもらわねばなりません。私の将来、とくに結婚のことなどは、すこしはかんがえますが、まだ、現在の家族のことで精一杯というのが実状です。

(3) ふだんは、五時に終業、五時半に帰宅、食事をつくり、風呂をわかし、入浴、食事、あとかたづけと追われます。とても、忙しいのです。なにかをする暇もありません。週に一度の休日は、寝ていることが多い。先週は木曜日が休日でした。でも、その休日に、公休者ばかりいっしょに、映画にいったり、小旅行にいったりもします。このあいだは、日活の「美しい暦」をみました。したいことの一つはスポーツです。昼休みなど、いくらか時間がありますから、バレーボールをやってみたい。でも、用具や場所の問題で、会社にかけあうひとがいなのです。組合はありません。

以上の六の事例からみるかぎりで、発見されることがらをすこし整理しておきたい。

労働過程と労働組織については、つぎの五点に注目しておきたい。(1)労働過程は、その単純性、単調性、部分性などにより、年少労働者たちに、関心がもてない作業に強制されたがう苦痛をあたえている。年少労働者の頻繁な転職のかんりの部分がこの苦痛とかかわっているのではなからうか。(2)これにたいして、わずかに例外をなすのは、料理人など、特殊な技術、正確には、技能の要素を比較的多くふくむ技術を習得する機会をもつ年少労働者たちである。彼らの労働過程にたいする意識にみられる特性の一つは、職業的自尊心である。(3)このほか、肉体的疲労、

同僚との折合の悪さ、上役の叱責なども、労働過程を苦痛なものにする。(4)以上の結果、自己の将来の労働生活について、積極的で明確な展望をもつことは困難となる。これにたいして例外にちかいものが成立したのは、商店などの自営の方向においてのみである。(5)労働組合にたいしては、比較的うすい関心のありかたが基調になっている。反撥・嫌悪はもちろんあるわけがないが、自分自身の問題として組合活動をかんがえるという域にまでは達していないようである。

賃金・消費支出と家族組織については、つぎの三点に注目しておきたい。(1)現在、所属している家族にたいして、つよい一体感をともなう関心がいだかれているば多いが多い。女子のばあい、くわえて、恋愛・結婚・あたらしく形成する家族への関心が、多かれ少かれ、ある。(2)賃金は一〇、〇〇〇円から一七、〇〇〇円までのあいだに分布している。これについては、その低額についての不満は、かならずしも一般的ではない。これは、賃金から、自分ひとりの生活費を得ればよいことが多い年少労働者の生活のせいがあるのかもしれない。賃金の社会科学的本質についての認識は彼らにみいだされない。(3)家族に生活費として五、〇〇〇円から一〇、〇〇〇円までをいれ、あとは、小遣いと貯金ではぼ二分してつかわれる。小遣いのつかいみちは、娯楽と衣服が主である。

労働時間・余暇時間と余暇消費とについては、つぎの三点に注目しておきたい。(1)労働時間は、比較的小さい企業では、ながく、不安定になりがちである。年少労働者たちは、このながい労働時間に苦痛をおぼえることもあるが、充分な抗議の姿勢は示されていない。また、労働時間の長さは余暇時間をとぼしくし、余暇志向のよわさをまねいている。(2)比較的大きい、安定した企業の年少労働者たちには、労働時間がさだまっており、余暇時間にめぐまれ、余暇志向がつよい。これは、彼らが労働過程に興味がもてない事実とみあい、家族への関心のつよさともかかわる。(3)

余暇消費の内容が、労働過程のための技術・技能の習得にあてられているか、あてられようとしているばあいがある。これは、労働生活についてのある程度の積極的で明確な展望とかわわっている。

4 年少労働者の労働と生活

— 数量化による接近 —

前章においては、年少労働者たちの労働と生活とにたいして、六の事例を紹介し、そこから、いくつかのことがらを抽象し、あきらかにしようと努力した。こうして、さいごには、労働過程と労働組織、賃金・消費支出と家族組織、労働時間・余暇時間と余暇消費という三つの面で、一〇余りのことがらを、いちおう、列記したわけである。それらと、先行する諸研究があきらかにしていることがらを参考にしつつ、調査票を構成しておこなわれた数量化による接近の結果を、以下に報告する。この叙述は、前者の叙述のある部分を確認し、ある部分を再検討すべき糸口をもたらしであらう。便宜上、事例の紹介にあたって採用した三つの面の分類をここでも採用する。

(1) 労働過程と労働組織

労働過程が、作業内容の単調性・単純性などによって、年少労働者たちに苦痛をあたえていることは、すでに、注目されている。この点を中心に、しばらく、みてゆきたい。

まず、「あなたは、現在のあなたの職業の内容・方法・技術について、興味がもてますか、もてませんか」という質問にたいする回答結果をとりあげる。

第13表 職業への興味（学歴別・性別）

		興味も もてる	どちらか といえども 興味も もてる	どちらか といえども 興味ない	興味も もない	回答なし	計
中	卒 男子	46	27	16	9	2	100(56)
	女子	19	42	25	14	—	100(52)
	小計	33	35	20	11	1	100(108)
高	卒 男子	40	28	21	10	1	100(84)
	女子	41	18	12	23	6	100(17)
	小計	40	26	20	12	2	100(101)
中卒・高卒計	男子	44	27	19	9	1	100(140)
	女子	25	36	22	16	1	100(69)
	合計	37	30	20	12	1	100(209)

質問「あなたは、現在のあなたの職業の内容、方法、技術について、
興味がありますか、もてませんか。」

調査対象全体では、「興味もてる」三七%、「どちらかといえど興味もてる」三〇%、「どちらかといえど興味がない」二〇%、「興味もない」一二%となる。後の二つの回答のばあいを詳細にみると、学歴別では、さしたる差はみいだされないが、性別では、女子にそれらの回答がやや多い。たとえば、中卒女子のばあい、二とおりの回答の比率の合計は、男子のそれが二五%であるのにたいして、三九%にまでおよんでいる（第一三表）。業種別では、製造業、卸・小売業、などで、全体の傾向とほぼ似通った傾向が出ている。これにたいして、運輸通信業、公務員などでは興味をもちがたいという訴えが比較的すくない（第一四表）。企業規模別では、この訴えが、二九人以下の企業のみできわだって少い。こころみに、後の二とおりの回答の比率合計をみると、五〇人以上で三五%、四九九人以下一〇〇人以上で三八%、九九人以下三〇人以上で三三%、二九人以下で二〇%となる（第一五表）。やはり、小さい企業ほど、労働過程の分割がすすんでおらず、それが、単調性・単純性の増大を阻止し

第14表 職業への興味（業種別）実数（ ）内%

	興味がある	どちらかといえば興味がある	どちらかといえば興味がない	興味がない	回答なし	計
漁業	1	—	—	—	—	1
建設業	3	2	1	1	—	7
製造業	35(30)	38(34)	28(24)	13(11)	1(1)	115(100)
卸・小売業	12(46)	5(19)	5(19)	4(16)	—	26(100)
金融業	3	1	1	—	—	5
運輸・通信業	8(40)	8(40)	2(10)	2(10)	—	20(100)
サービス業	5	2	—	—	—	7
公務員	9(47)	5(26)	3(16)	2(11)	—	19(100)
分類不能	1	1	—	1	—	3

業種についての「回答なし」6を除く

第15表 職業への興味（企業規模別）

	興味がある	どちらかといえば興味がある	どちらかといえば興味がない	興味がない	回答なし	計
500～	34	31	21	14	—	100(102)
100～499	34	28	28	10	—	100(29)
30～99	29	33	14	19	5	100(21)
～29	50	30	16	4	—	100(50)

規模についての「回答なし」7を除く

ているからであろうか。前章の、大企業のF発動機につとめるY・K君のばあいと、アイスクリーム製造機をつくる工員三人の町工場Y機械につとめていたころのM・T君のばあいとを、対照しつつ想起してほしい。

つぎに、前問への回答の理由をとう質問にたいする、回答結果をとりあげてみる。

自己のしたがう労働過程に興味をもっているという調査対象全体では「仕事に変化に富んでいる」一五％、「仕事が全体的である」一四％、「仕事が複雑である」二二％、「仕事に社会的意義がある」一五％、「仕事に自分がいかせる」

第16表 興味をもつところ（学歴別・性別）

			仕事に 変化に 富んで いる	仕事に 全体的 である （事業 活動と おつて いる）	仕事に 複雑な ものである （だれ でも うでは ない）	仕事に 社会的 意義が ある（世 の中に なっている）	仕事に 自分が いかせ る（自 分に なっている）	その他	回答 なし	計
中	卒	男子	5	2	33	17	33	10	—	100(42)
		女子	19	25	19	6	28	3	—	100(32)
		小計	11	12	27	12	31	7	—	100(74)
高	卒	男子	19	19	16	19	17	5	5	100(58)
		女子	27	—	27	18	18	—	10	100(11)
		小計	21	16	17	19	17	4	6	100(69)
中卒・高卒計	男子	合計	13	12	23	18	24	7	3	100(100)
		女子	21	19	21	9	26	2	2	100(43)
		合計	15	14	22	16	24	6	3	100(143)

質問「どういふところに興味をもてますか」

二四%と、理由が分布する。学歴別では、「仕事に複雑である」「仕事に自分がいかせる」では中卒がめだち、「仕事に変化に富んでいる」では高卒がめだっている。性別では、「仕事に変化に富んでいる」「仕事に全体的である」などで女子がめだつ（第一六表）。これだけでは、納得が充分にゆく説明をつけることはできないし、回答結果には「タテマエ」が多くふくまれていることも予想されるが、レストラン・丁軒につとめるA・H君のばあいなどをかんがえあわせれば、労働過程の変化性・全体性・複雑性・あるいは、自分がいかせるという回答には、ある程度の真実の意見も、また、ふくまれているとみてもよいのではなからうか。

さらに、サンプル数の関係で表は省略するが、自己のしたがう労働過程に興味をもたないという調査対象全体では、「仕事に単調である」四二%に、理由が大きく集中する。ついで、「仕事に自分がいかせない」二九%、「仕事に簡単である」一三%、「仕事に部分的で

第17表 将来身につけたい職業技術の有無
(学歴別・性別)

		あ る	な い	計
中 卒	男子	75	25	100(56)
	女子	44	56	100(52)
	小計	60	40	100(108)
高 卒	男子	48	52	100(48)
	女子	71	29	100(17)
	小計	51	49	100(101)
中卒・高卒計	男子	59	41	100(140)
	女子	51	49	100(69)
	合計	56	44	100(209)

質問「将来、身につけたい職業技術がありますか、ありませんか」

第18表 ある職業技術を身につけたい理由

	興味が もてる から	収入がた かそうだ から	その他	回答 なし	計
中卒計	40	5	40	15	100(65)
高卒計	48	6	36	10	100(52)
男子計	44	5	40	11	100(82)
女子計	43	6	34	17	100(35)
計	44	5	38	13	100(117)

質問「具体的にかかれた職業技術を身につけたいとおもわれる理由はなんですか」

ある「八%となる。Y・K君 F 製菓の Y・S さん、そのほかの事例による接近でもくつかえしみたように、労働過程の単調さは、年少労働者たちを苦しめているのが、よくわかる。とくに、高卒のばあい、これがめだつ。また、「仕事は単調である」と似通う要素もある、「仕事に自分がいかせない」で中卒が多いが、これは、中学校卒業で就

職して三年もたつと、現在の社会構造のなかでは、自分の学歴によっては、ある程度のかさの社会的地位を手に入れるのが困難なばあいが多く知りはじめ、焦りはじめているということとかかわるのではなからうか。

さて、そこで、「将来、身につけたい職業技術がありますか、ありませんか」という質問への回答結果をとりあげ、現在の労働生活への判断と将来の労働生活への展望をみることにする。

対象全体では、「ある」五六%、「ない」四四%、中卒のばあいと男子のばあいとで、この差は、いっそう大きな

る(第一七表)。「ある」とするものに、理由を問うと、「興味をもてるから」四四%が主であり、「収入がたかそうだから」は、きわめてわずかである(第一八表)。なお、念のために、現在の労働過程への興味があるかないかと、将来、身につけたい職業技術があるかないかを、クロス集計してみると、前問で「興味をもてる」「どちらかといえば興味をもてる」のいずれかにこたえながら、後問に「ある」とこたえる者は、七〇%になる。こうして、てみじかにいえば、年少労働者たちの大きい部分は、現在の労働が関心をよせることができるものであるか、ないかにかかわらず、ほかの労働に関心をひかれがちである。そこには、いっぽうでは、意識されているかいないかにかかわらず、現実にしたがう労働が疎外された労働であり、その疎外にたいする反撥が表明されているともみえる。しかし、たほうでは、年少労働者たちのがわに、なにか技術を身につけ、それによって、現在の社会のなかで、よりすぐれた生活の条件と生活の意味を手に入れようとする、一種の「タレント主義」があるとも推測される。

これらの推測の裏付けに、第一九表をかがけておく。それは「あなたは職業にかんして、つぎのどれが大事だともいますか」という質問への回答結果である。このばあい、「技術・内容・方法に興味をもてる」四六%、「職場で他の人とうまくゆく」三〇%が主な回答である。事例においては、A・H君の調理技術の習得の熱意、M・T君のトラック運転の技術の習得へのあこがれ、などに、この実例をみてきた。なお、Y・K君のばあいのギターへの熱中なども、このようなタレント主義の変形とみて、みられないことはあるまいとかんがえられる。

こんどは、労働組織の問題を組合に焦点をしばって、みておきたい。

すでに、事例による接近において、年少労働者たちの組合にたいする関心のうすさを、いちおうみてきた。以下の数量化による接近では、対象がつとめている事業所における組合の有無などにかんする基礎的な資料のみをあきらか

第19表 職業で大切なもの（学歴別・性別）

		技術、内 容、方法 に興味を もてる	収入がた かい	職場で他 のとうま くゆく	その他	回答なし	計
中	卒 男子	48	11	27	3	11	100(56)
	女子	34	10	50	—	6	100(52)
	小計	42	10	38	2	8	100(108)
高	卒 男子	48	24	25	1	2	100(84)
	女子	59	29	6	—	6	100(17)
	小計	49	25	22	1	3	100(101)
中卒・高卒計	男子	48	19	26	2	5	100(140)
	女子	40	15	39	—	6	100(69)
	合計	46	17	30	1	6	100(209)

質問「あなたは、職業にかんして、つぎの項目のうち、どれが大事だ
とおもいますか」

注) 調査では大事なものを第1位から第3位までランクさせた。その
うちの第1位にかんするもののみが、この表にまとめられている。

にしたうえで、その関心のうすさと関連するとおもわれる
社会的・政治的無関心の一端にふれておきたい。

「現在あなたがつとめている事業所に組合があります
か」という質問にたいする回答結果をとりあげる。

対象全体としては、「ある」六三%、「ない」三七%とわ
かれる。学歴別では、「ない」に注目すると、中卒で五〇
%、高卒で二三%となり、中卒の年少労働者たちがより不
利な条件にあることが示される(第二〇表)。業種別では、
「ない」が、建設業、卸・小売業などで高率をもっている。
これは、一般的にも知られている傾向である(第二二表)。
企業規模別では、それが小さくなるにつれて、「ない」の
比率が、多少の凸凹はあっても増大している。

なお、組合の有無と調査対象の加入の有無とは原理的に
はことなるが、実際のデータでは、組合があっても対象が
加入していないというばあいがないので、あらためて加入
をとりあげない。また、組合の役員になり、実活動にし
たがったという例もまれなので、ここではとりあげない。

第20表 労働組合の有無（学歴別・性別）

	あ る	な い	回答なし	計
中 卒 男子	48	52	—	100(56)
女子	52	48	—	100(52)
小計	50	50	—	100(108)
高 卒 男子	76	24	—	100(84)
女子	76	18	6	100(17)
小計	76	23	1	100(101)
中卒・高卒計男子	65	35	—	100(140)
女子	58	41	1	100(69)
合計	63	37	0	100(209)

質問「現在あなたがつとめている事業所に組合がありますか」

第21表 労働組合の有無（業種別）

	あ る	な い	計
建 設 業	14	86	100(7)
製 造 業	68	32	100(115)
卸・小 売 業	19	80	100(26)
金 融 業	80	20	100(5)
運 輸・通 信 業	100	—	100(20)
サ ー ビ ス 業	43	57	100(7)
公 務 員	89	11	100(14)

「漁業」1「分類不能」3「回答なし」6を除く

おわりに、年少労働者たちの組合にたいする関心のうすさの背景となる、彼らの、労働・階級・社会・政治などについての意識構造を示す三とおりの表をかがげる。それぞれ、組合の有無で内訳をみたが、特記するほどの差はない。全体として、労働にたいしては消費志向の優位がみとめられる（第二三表）。F製菓のS・Kさん、Y・Sさんなどは、この実例であろう。

また、自己中心主義も露骨に示されて（第二三表）、階級関係では階級協調主義が圧倒的に多く支持される（第二四表）。しかし、また、そこには、社会構造への着眼や階級についての正確な認識への萌芽もみいだされる。それらを、組合はどのようにしてとりあげ、成長させてゆくことができるかが、さらにかんがえられねばならない。

(2) 賃金・消費支出と家族組織

つぎに、年少労働者たちの経済生活にかんする資料を紹介する。ここ

第22表 組合の有無と労働に対する態度

	ある	ない	回答 なし	計
自分は仕事そのものに喜びを感じるよりも 仕事でえた収入で生活をたのしみたい	67	33	—	100(75)
自分は仕事からえた収入で生活をたのしむ よりも仕事そのものに生き甲斐を感じたい	55	43	2	100(53)
どちらともいえない	67	33	—	100(61)
わからない	46	54	—	100(13)
回答なし	71	29	—	100(7)
合 計	63	37	0	100(209)

質問「仕事と生活とについてつぎの意見がありますがあなたはどちら
に賛成ですか」

第23表 組合の有無と生活改善の道

	ある	ない	回答 なし	計
なんといってもたよりになるのは自分だけ だから、できるだけはたらき、うまくた まわることだ	64	35	1	100(69)
なんといっても国全体の繁栄が第1で、そ うすれば1人1人の生活もよくなる	64	36	—	100(36)
なんといっても社会の仕組をかえるのが第 1だ。社会の仕組がわるければ、貧乏人は うかばれない	64	36	—	100(78)
わからない	50	50	—	100(18)
回答なし	63	37	—	100(8)
合 計	63	37	0	100(209)

質問「生活してゆく方法についてつぎのような意見があります。あな
たの意見は、このうち、どれに一番近いとおもいますか」

では、調査をつうじてあきらかに
された対象の実態を記述するにと
どめる。

まず、月収をとうて「先月のあ
なたの収入は手どりでいくらでし
たか」という質問がある。これに
たいする回答結果をみてみる。

調査対象全体では、月収を五、
〇〇〇円きざみでみると、一〇、
〇〇〇円以上、一四、九九九円以
下に五三％が集中する。これに、
一五、〇〇〇円以上、一九、九九九
円以下の二七％をあわせると、一
〇、〇〇〇円台に全体の八〇％が
ふくまれていることになる。この
範囲で、一五、〇〇〇円以上、一
九、九九九円以下に、学歴別では

第24表 組合の有無と労資関係への態度

	あ る	な い	回答なし	計
甲に賛成	88	12	—	100(17)
どちらかといえば甲に賛成	79	21	—	100(19)
どちらともいえない	65	35	—	100(23)
どちらかといえば乙に賛成	54	46	—	100(92)
乙に賛成	65	35	—	100(51)
回答なし	43	43	14	100(7)
合 計	63	37	0	100(209)

年少労働者の実態

質問「労働者階級と資本家階級の関係についてつぎのような2つの意見があります。甲：労働者階級と資本家階級の利害はまったく相反しているから、労働者階級はあくまで資本家階級とたたかわねばならない。乙：会社がもうかれば賃金があがるように、資本家階級の利害と、労働者階級の利害はきゆうきよくにおいて一致するのだから、労働者階級と資本家階級は協力しなければならない。あなたは、甲・乙いずれに賛成ですか」

第25表 先月の収入（学歴別・年令別）

	4999円 以下	5000円 以上 9999円 以下	10000円 以上 14999円 以下	15000円 以上 19999円 以下	20000円 以上 24999円 以下	25000円 以上	回答 なし	計
中卒男子	4	7	55	27	7	—	—	100(56)
女子	—	11	79	6	2	—	2	100(52)
小計	2	9	66	17	5	—	1	100(108)
高卒男子	—	5	36	41	9	9	—	100(84)
女子	—	—	65	23	6	—	6	100(17)
小計	—	4	40	38	9	8	1	100(101)
全体男子	1	6	43	35	9	6	—	100(140)
女子	—	9	75	10	3	—	3	100(69)
合計	1	7	53	27	7	4	1	100(209)

質問「先月のあなたの収入は手どりでどれくらいでしたか」

中卒より高卒が、性別では女子より男子が、より多く集中する（第二五表）。業種別では、卸・小売業、製造業および運輸通信業などが、ほかの業種にくらべて、より優位を占めている。それらにたいして、劣位が比較的、めだつのは、公務員である。ほかの業種

第26表 先月の収入（規模別）（中卒・高卒計）

収入 規模	4999円 以下	5000円 以上 9999円 以下	10000円 以上 14999円 以下	15000円 以上 19999円 以下	20000円 以上 24999円 以下	25000円 以上	回答 なし	計
500～	—	3	57	34	4	2	—	100(102)
100～499	—	17	56	24	3	—	—	100(29)
30～ 99	—	5	85	5	—	—	5	100(21)
～ 29	4	10	36	20	18	12	—	100(50)
回答なし	—	—	43	43	—	—	14	100(7)
合 計	1	7	53	27	7	4	1	100(209)

年少労働者の実態

第27表 生活の形態

	親もとから はなれて生 活している	親といっし よに生活し ている	合 計
中 卒 男子	14	86	100(56)
女子	15	85	100(52)
小計	15	85	100(108)
高 卒 男子	23	77	100(84)
女子	6	94	100(17)
小計	20	80	100(101)
中卒・高卒計男子	19	81	100(140)
女子	13	87	100(69)
合計	17	83	100(209)

質問「あなたの現在の生活についておたずねします。
あなたは現在、親もとからはなれて生活しています
か、親もとでいっしょに生活していますか」

は、実数が小さすぎて、多くをいえない。規模別では、五〇〇人以上の企業が、一五、〇〇〇円以上の比率にみられるように、ほかから抜きんでている（第二六表）。一般に、年少労働者の賃金構造の変化として、業種間、企業規模間の分散の縮少がいわれるが、この資料からみるかぎり、この平準化はかならずしも完了したわけではないようである。

この賃金の使途については、多くを問うてはいないが、二、三の表を紹介しておきたい。対象全体のなかで、「親もとからはなれて生活している者」一七%、「親といっしょに生活している者」八三%となる（第二七表）。両者のそれぞれで消費支出のありかたが異なると予想されるので、それを別々に問うた。前者の消費支出を第

第28表 収入と生活（親もとを離れているもの）

	収入の一部を親に仕送りしている	親に仕送りが親から援助されない	生活費の一部を親から援助されている	回答なし	合 計
中卒・高卒計合計	25	58	11	6	100(36)

質問「あなたの収入と生活についてはつぎのどれが当てはまりますか」

第29表 収入と生活（親といっしょに生活しているもの）

	収入のすべてを家に入っている	収入の半分を家に上っている	収入の半分を家に入っている	収入の半分を家に入っている	家には一銭もないが衣服などは分る。	収入はすべて小遣い生活のみ	回答なし	小 計
中卒・高卒計男子	8	26	33	23	8	2	2	100(113)
女子	10	12	33	40	2	3	3	100(60)
合計	9	21	33	29	6	2	2	100(173)

質問「あなたの収入と生活費についてはつぎのどれが当てはまりますか」

二八表に、後者のそれを第二九表に、示しておく。これらの表だけからは決定的なことはいえないが、全体の六〇%余りが、自己の収入で自己の生活をささえており、三〇%前後が、さらに、ほかの家族員の生活の一部あるいは全部をもささえていると推測される。

(3)労働時間・余暇時間と余暇消費

おわりに、年少労働者たちの労働時間・余暇時間を中心に、余暇消費をもあわせ、それらの資料を紹介する。

労働時間を問い「あなたの勤務時間は平日でつぎのどれにあたりますか」という質問にたいする回答結果をみよう。

対象の全体で、労働時間が八時間をこえるとこたえた者が、一九%に達する。学歴別、性別ではめだつた差がない（第三〇表）。業種別では、卸・小売業、運輸通信業で、労働時間のながさがめだっている。とくに、前者では、労働時間が八時間をこえる者が五〇%に達する。また、「まったく不定で、平均しても意味がない」とこたえた者も八%もある。サービス業も実数が少いので決定的なことをいえないが、労

第30表 労働時間（学歴別・性別）

	6時間 1分以上 7時間 59分以下	8時間	8時間 1分以上 9時間 59分以下	10時間 以上	まったく 不定で、 平均して も意味が ない	回答 なし	計
中 卒 男子	27	53	12	4	4	—	100(56)
女子	31	51	2	10	6	—	100(52)
小計	29	52	8	6	5	—	100(108)
高 卒 男子	32	45	11	10	2	—	100(84)
女子	35	46	13	—	—	6	100(17)
小計	33	45	11	8	2	1	100(101)
中卒・高卒計男子	30	49	11	7	3	—	100(140)
女子	32	52	4	7	4	1	100(69)
合計	31	50	9	7	3	0	100(209)

質問「あなたの勤務時間は、平日でつぎのどれにあたりますか」

第31表 労働時間（業種別）

	6時間 1分以上 7時間 59分以下	8時間	8時間 1分以上 9時間 59分以下	10時間 以上	まったく 不定で、 平均して も意味が ない	計
建設業	14	29	14	29	14	100(7)
製造業	38	53	8	—	1	100(115)
卸・小売業	—	42	23	27	8	100(26)
金融業	60	40	—	—	—	100(5)
運輸・通信業	40	40	10	5	5	100(20)
サービス業	—	14	14	58	14	100(7)
公務員	26	74	—	—	—	100(19)

「漁業」1「分類不能」3「回答なし」6を除く

労働時間がながく、T軒のA・H君のことを想起させる（第三一表）。企業規模別では、二九人以下の労働時間のながさがめだつ。労働時間が八時間をこえるものは、実に、四四％におよんでいる（第三二表）。これは、全国的にもみとめられる傾向で、とくに、四人以下の零細企業で、住みこみ年少労働者のばあいには、九時間以上の労働時間が七八％、一時間以上が二五％におよぶのである。さらに、「あなたの勤

第32表 労働時間（企業規模別）

	6時間 1分以上 7時間 59分以下	8時間	8時間 1分以上 9時間 59分以下	10時間以上	まったく不 定で平均し ても意味が ない	計
500～	45	45	7	2	1	100(102)
1004～99	17	73	7	—	3	100(29)
30～ 39	24	66	—	5	5	100(21)
～ 29	12	38	20	24	6	100(50)

年少労働者の実態

「回答なし」7を除く

第33表 勤務時間が守られているか（学歴別・性別）

	勤務時間 はきま つてい る。	勤務時間 はきま つてい るが、 残業手 当がつ く。	勤務時間 はきま つてい るが、 30分 間が多い がある。	勤務時間 はきま つてい るが、 1時間 以上多 い。	勤務時間 はきま つてい るが、 2時間 以上多 い。	回答なし	計
中 卒 男子	60	20	9	11	—	—	100(56)
女子	57	25	10	8	—	—	100(52)
小計	60	22	9	9	—	—	100(108)
高 卒 男子	55	32	7	4	2	—	100(84)
女子	59	23	12	—	6	—	100(17)
小計	55	31	8	3	3	—	100(101)
中卒・高卒計男子	58	27	8	6	1	—	100(140)
女子	58	25	10	6	1	—	100(69)
合計	58	26	9	6	1	—	100(209)

質問「あなたの勤務時間についておたずねいたします。勤務時間は
はっきりきまっていますでしょうか」

務時間についておたずね
いたします。勤務時間
ははっきりきまってい
るで
しょうか」という質問に
たいする回答をみる。対
象の全体で、「勤務時間
はだいたいきまってい
るが、日により三〇分や
一時間くらい多い少
いがある」九%、「勤務
時間はきまっているが
、ほとんど守られない
。残業手当もない」六
%あたりが、労働時間
が不安定な部類に
はいろいろ。

この、労働時間の
ながさにより余暇
時間のなが

第34表 余暇時間における集団（学歴別・性別）

	学校時代からの友だち仲間	職場の友だち仲間	近所の友だち仲間	その他	回答なし	合 計
中 卒 男子	20	57	14	5	4	100(56)
女子	8	70	8	8	6	100(52)
小計	14	64	11	6	5	100(108)
高 卒 男子	30	57	7	4	2	100(84)
女子	35	53	—	6	6	100(17)
小計	31	56	6	4	3	100(101)
中卒・高卒計男子	26	57	10	4	3	100(140)
女子	14	67	6	7	6	100(69)
合計	22	60	9	5	4	100(209)

年少労働者の実態

質問「あなたはひまなとき（仕事をしないとき）友だち、仲間などといっしょに時間をすごすことがありますか。そういう友だち仲間などのグループはつぎのどの種類に属しますか」

第35表 余暇時間における活動内容(学歴別・性別)実数・いくつ答えてもよい

	職場の友だち仲間	職場以外のこづつをいのはなし	スポーツをする	映画をみる	飲食をする	けいこをする	勉強をする	その他
中 卒 男子	18	22	29	19	22	4	4	8
女子	28	35	6	19	29	4	1	7
小計	46	57	35	38	51	8	5	15
高 卒 男子	30	41	37	15	42	4	3	7
女子	10	5	3	2	9	6	—	2
小計	40	46	40	17	51	10	3	9
中卒・高卒計男子	48	63	66	34	64	8	7	15
女子	38	40	9	21	38	10	1	9
合計	86	103	75	55	102	18	8	24

質問「あなたはひまなとき（仕事をしていないとき）友だち仲間などといっしょに時間をすごすことがありますか。主としてなにをいっしょにしますか」

のが、A. 成された質問が構う。このうてみよものを問らとやるとと、彼やる人びっしょにそれをい容のうち余暇時間の活動内る。そのさされていさが規定

H君が、友だちと雑談をしても、あそび関係の話題をえらび、仕事関係の話題をさけると述べたこと、および、Y・K君、M・T君などの労働過程についての関心にかんする意見を参考に行っている。

いっしょに余暇をすごす人びとについて、「そういう友だち、仲間などのグループは、つぎのどの種類に属しますか」という質問には、「職場の友だち・仲間」が六〇%と最も多い。つぎが「学校時代の友だち」で二二%となる（第三四表）。表は省略するが、企業規模が小さくなるほど、この「学校時代の友だち」の比率がたかまる。いっしょにやる活動内容については、実数の表をかかけるにとどめる（第三五表）。

▲附記Vこの調査は、昭和三七・三八年度文部省試験研究「産業の高度化と労働者生活の変化」によってなされたものである。調査は共同調査であるが、本報告は、三溝、副田によって書かれた。執筆分担は、第一節、第二節が三溝、第三節、第四節が副田となっている。